

2009 年度(平成 21 年度)

事業計画

2009年(平成21年)3月27日

学校法人 上智学院

はじめに

学校法人上智学院は、2011年に法人創立100周年、2013年には、上智大学創立100周年、上智短期大学創立40周年、上智社会福祉専門学校創立50周年を迎えます。

昨年、2008年は、上智大学設立のため、3人の外国人イエズス会士が来日して100周年を迎えました。本学院は、その志を受継ぐべく、全学一同建学の精神並びに教育の精神のもと、さまざまな計画に取り組みます。

一方、現在の世界的金融危機は、日本国内のみならず、世界中の教育機関にも痛烈な打撃を及ぼしております。本学院は、これまでも創立以来幾多かの困難に直面しながらも、その時々を局面を構成員一丸となって乗り切ってきました。2013年までの具体的な年度計画の策定とその実施は、単に経済や高等教育を取り巻く厳しい状況への対応といった目先の問題解決にとどまらず、これまで本学院が蓄積してきた叡智をさらに磨き、「世界」と「将来」を見据えたものでなければなりません。実施にあたっては、質的な向上に加えて、対外的に果すべき責任体制を確立するとともに、ステークホルダーを始めとする様々な人、組織、団体との連携を試みながら、これまで以上に柔軟にさまざまなネットワークを活用して、本学から独自のメッセージを強く発信していくことが求められています。

これらの状況を踏まえ、創立100周年(A.D.2013)上智大学教育・研究・キャンパス再興 グランド・レイアウトを基底とし、2009年度における事業計画と予算案を策定しました。本事業計画は、大きく3つの項目から構成されています。第1項目では、「教育・研究に係る重要課題と事業計画」について、本学院が設置する上智大学、上智短期大学および上智社会福祉専門学校における項目について述べ、第2項目は、管理運営の重要課題と事業計画、第3項目は、2009年度予算の概要を經常予算と特別予算とに分け、それぞれの具体的措置を述べております。

本学院は、創立100周年(A.D.2013)上智大学教育・研究・キャンパス再興 グランド・レイアウトの最終期にあたる、第3期(2011～2013年)を視野にいれ、21世紀の上智学院を構成する3校の発展構想をさらに進展させるため、年度ごとの事業計画に基づく「上智大学創立100周年記念事業」を推進しながら、2013年を1つの飛躍の契機とすべく、新たな挑戦を続けていきます。

I. 創立100周年(A.D.2013)上智大学教育・研究・キャンパス再興 グランド・レイアウト(2001年～2013年 中・長期計画)

本学院は、2001年、「世界に並び立つ大学」への進化を目指して、「創立100周年(A.D.2013)上智大学教育・研究・キャンパス再興『グランド・レイアウト』(中長期計画)」を学内外に公表しました。「グランド・レイアウト」は、次の「基本的方向・姿勢」を掲げ、本学院は、「恒常的な自己変革体制」の確立を図り、創立第2世紀に向けた基盤づくりに努めています。

「グランド・レイアウト」の基本的方向と姿勢は、次のとおりです。

- (1) 優位性・独自性を樹立する。
- (2) 国際的評価を得る高等教育機関として存立する。
- (3) キャンパス・ライフの環境条件を整備充実させる。

- (4) 21世紀を見据えた教育研究体制を確立するための組織・職制・人事計画を整備する。
- (5) 学生納付金・補助金・募金・寄付金・収益事業計画、財政計画を樹立し、新しい財政基盤を整備する。
- (6) 選択と集中を原則とする。
- (7) 組織、構成員参加型手法を採用する。

グラウンド・レイアウトは、第1期(2001～2005年)では、教育組織や研究体制の再編、建物建設や事務組織の構築などの、いわば「枠組み」あるいは「ハード面」の改革に重点的に取り組み、多くの新ホフマン計画を実現しました。それを受けて2006年1月には、「グラウンド・レイアウト第2期(2006～2010年)に向けて」を発表しました。

第2期(2006～2010年)の4年目となる2009年度においても、第1期からの重要課題である「キャンパス・ライフの環境条件の整備充実」を、引続き重要課題とし、認証評価における学生収容定員と校地面積を視野に入れた「キャンパス(四谷・市谷・石神井・秦野・真田濠)の利用計画」や既存建物の耐震診断及び耐震補強工事の実施などに取り組み、各検討専門委員会において具体的な検討を進めます。4年後の2013年に向けた行事企画、さらに教育・研究の改革、国際貢献、社会貢献についても、創立100周年記念事業の中心課題と位置づけて、創立100周年記念事業募金活動とともに特色ある推進をしていきます。

第2期における重要課題としては、以下の6つの事項を挙げました。

- (1) 全人教育・教養教育のあり方
- (2) 学長直属審議機関の設置
- (3) 入試制度・業務体制の改善
- (4) 学術交流の推進
- (5) 研究業績主義の導入
- (6) 研究のための安定的な資金調達

2009年度においては、上記の第2期における重要課題を受けて、全学共通科目の必修科目である「人間学」を発展させた「人間性」を探求する「キリスト教人間学」の開設や我が国の「留学生30万人計画」を視野に入れ、交換協定校等との教職員の交流を含めた国際化の実現を推進していきます。また、それ以外においても、神学部の再編、教員免許更新制度への対応や講座開設を含めた課程センターの設置、カトリック高校対象特別入試から始まったカトリック校間のネットワークをさらに発展させ、高大連携の強化を図り、大学間連携にも積極的に取り組みます。

Ⅱ. 教育・研究計画に係る重要課題と事業計画

1. 上智大学の重要課題と事業計画

教育・研究領域において取り組むべき2009年度の重要課題としては、(1)教育・研究機能の強化、(2)国際化・国際連携の推進、(3)学生生活の活性化、を大きな柱として掲げ、下記のような具体的施策に取り組んでいきます。

(1)の教育・研究機能の強化については、本学の掲げる教育目的を実現できる教育のあり方を意識しつつ、より有益かつ実効的な教育を推進するための諸施策を検討し、実施します。このような教育機能の強化は、研究活動の姿勢と内容に好影響を及ぼすとともに、

研究活動の高い水準を追求し、これを維持することに繋がります。

また、本学の最大の特徴の1つであり続けてきた国際性については、他大学における国際化の進展が著しく、本学が必ずしも比較優位の状況にあるとはいえず難しくなっています。それだけに(2)の国際化・国際連携の推進という課題を掲げ、人的あるいは学術レベルにおける一層充実した交流を図るとともに、本学の「内なる国際化」(教職員の意識の深化とともに、(1)の教育機能の強化に連なる)の諸施策を検討し、実施します。

さらに、(3)の学生生活の活性化については、本学に在籍する学生・院生が本来の勉学・研究において充実感・達成感を味わうことはもちろんのこと、大学生活全体を通じてそれぞれが「輝いた存在」となるような諸施策を検討し、実施します。

重要課題と事業計画

(1) 教育・研究機能の強化

教育の質的向上に係る取組み

- ① 学部・研究科の再編(含む、新神学部の開設と定員増)とそれに伴う重点的広報
- ② 教育の活性化のための教育イノベーション・プログラムの新設
- ③ 教育の方法・内容の改善向上策(キリスト教人間学の開設、語学教育の見直し、外国語による授業科目の増設等を含む)の模索とFDセンター(情報リテラシーの強化を含む)設置の検討
- ④ 初年次教育や導入教育の検討
- ⑤ 課程センターの設置
- ⑥ 外国語 e-Learning プログラムの推進
- ⑦ サービス・ラーニングやキャリア・ディベロプメントの導入と単位化の検討
- ⑧ リーダーを養成する社会人対象講座の新設(上智大学エクゼクティブ・ビジネス・アカデミー)

アドミッション・ポリシーの明確化に係る取組み

- ⑨ 入試制度改革の推進(具体策とその実施)
- ⑩ イエズス会系高校・カトリック高校とのさらなる連携強化
- ⑪ 大学院入試実施体制の改善
- ⑫ アドミッション・ポリシー/エデュケーション・ポリシーを基軸とした広報戦略のさらなる強化と海外広報の強化(大学院を含む)

教育研究環境の改善に係る取組み

- ⑬ 寄付講座の受入れ体制の整備
- ⑭ 研究機構常設研究部門の統合とグルーピング(イベロアメリカ研究所・ポルトガル語圏研究所の統合とアジア文化研究所を含むグループ化、ヨーロッパ研究所・イスパニア研究所の統合とアメリカ・カナダ研究所を含むグループ化)、研究機構時限研究部門の展開
- ⑮ 中央図書館・総合研究棟の大学院生研究室の配置変更さらによる研究環境の適正化
- ⑯ 附置研究機関(キリシタン文庫、モニュメンタ・ニポニカ、アジア人材養成研究センター等)の体制整備
- ⑰ 女性研究者養成・研究活動支援プロジェクト計画の策定
- ⑱ 競争的外部資金等獲得促進策の実施
- ⑲ 知的財産管理体制の整備

- ⑳ 教育設備・高度IT・メディア環境の整備
- ㉑ 多様なメディアに対応しうる教室設備の強化
- ㉒ 図書館における学術情報基盤の整備
- ㉓ 中央図書館の地下1階へのラーニング・コモンズ設置とフロア計画の見直し
- ㉔ 機関リポジトリ及びWebによる教育・研究成果の公開と広報展開
- ㉕ オープンコースウェア(OCW)の導入による授業公開の環境整備
- ㉖ 秦野キャンパスの再整備と有効活用(大学・短大含む)

教学組織の運営の強化に係る取組み

- ㉗ 上智大学教育研究諮問会議の継続開催
- ㉘ 教学系意思決定のあり方に係る見直しと対応策の検討
- ㉙ 研究・教育・学内行政参画・社会貢献等の実績に基づく教員評価制度の検討

(2) 国際化・国際連携の推進

海外との連携交流に係る取組み

- ① 短期教員交換制度の新設
- ② The Sophia-Yale Joint Scholarship Program の継続実施
- ③ 第2回イエズス会東アジア4大学グローバルリーダーシップ・プログラムの実施
- ④ 海外留学奨励費の新設による「一般留学」の促進
- ⑤ 大学院教育改革支援プログラムによる「ソフィア・カイロ・リサーチセンター」の開設とメキシコにおける研究拠点設置準備
- ⑥ グローバル・リーダー奨励費の拡充
- ⑦ 在学生の10%に留学・海外学習を体験させるための諸施策の実施
- ⑧ 海外短期語学講座・海外短期研修・交換留学(英語集中コース)の拡充

推進体制の強化に係る取組み

- ⑨ 国際戦略本部体制の確立
- ⑩ 「留学生30万人計画」を視野に入れた積極的留学生受入政策の検討と体制整備
- ⑪ 国際化に対応する研究者等の宿舍の検討
- ⑫ 留学生と日本人学生との交流促進を目的とした国際交流プログラムの企画

(3) 学生生活の活性化

奨学制度の強化に係る取組み

- ① 優秀な研究者育成を目的とした新たな奨学金制度の設置(博士後期課程入学者への経済支援重点化等)
- ② 留学生受入促進に資する新たな奨学金制度の設置(特にアジア諸国からの留学生の修学保証)
- ③ 奨励制度としての学長賞、学長奨励賞の新設(学術研究活動、課外活動、社会活動、国際交流等の分野において、目覚しい活躍をし、大学の名誉高揚に貢献のあった学生、学生団体に対して)

学生生活支援に係る取組み

- ④ 上南戦50周年記念大会と記念行事への全学的な取組み
- ⑤ 学生の心身の健康の維持、増進を図るため、関連部署間の連携した支援体制

の強化

- ⑥ 留学生を含む、学生寮・宿舍入居に関する支援体制の強化

2. 上智短期大学の重要課題と事業計画

教育・研究のさらなる発展と充実を目標に掲げて 2002 年にスタートした大学改革を、新しく就任する学長のリーダーシップのもと 2009 年度も引き続き推進し、「夢を応援する大学」としての実質をさらに高めるよう努めます。

2007 年度に財団法人短期大学基準協会による第三者評価において「適格」と認定されたことを受けて、2009 年度も受け入れた学生一人ひとりを大切にす教育の原点を見据えて、授業の充実や学習指導体制の強化を通して、アカデミックな面での成長を支援するばかりでなく、課外活動・学生生活・進路などのあらゆる面で学生が人間的に成長することを支援するために、次の課題に取り組みます。

重要課題と事業計画

(1) 教育・学習支援の強化

- ① 学生の英語力向上のために e-Learning の機能強化
- ② 図書館の利用環境の整備
- ③ 導入教育のためのハンドブック作成

(2) 学生支援の強化

- ① 「サービス・ラーニングセンター」の設置による総合的な学生支援体制の確立
- ② 学生カルテ(ポートフォリオ)の導入
- ③ コンピテンシー診断テストの導入
- ④ チューター制度の導入
- ⑤ 特待生奨学金制度の導入
- ⑥ 就職資料室の機能充実(PCの入れ替え)
- ⑦ 奨励制度としての学長賞の新設(学生の学術、芸術、社会活動、文化活動等の優れた業績に対する顕彰)

(3) 管理運営における重要課題と事業計画

- ① 1号館1階教室机・椅子の入れ替え
- ② 屋外アメニティスペースの設置(屋外据置きタイプの机・椅子の購入)
- ③ 屋外ステージの設置(簡易移動型の舞台装置購入と収納倉庫の設置)

3. 上智社会福祉専門学校の重要課題と事業計画

2009 年度の重要課題は、関連法令の改正に沿った改善・改革及び厚生労働省からの 2007 年度本校実地調査による指摘事項の改善です。併せて、日本社会の福祉政策・行政・現場を見極め、安定性・将来性の確保を目指しつつ、今後益々、労働環境等が厳しくなる福祉の世界において使命感をもって活躍する人々を育成・支援し続けることができるよう、主に次の課題に取り組みます。

重要課題と事業計画

- ① 段階的に施行される「社会福祉士及び介護福祉士法」(平成 24 年 4 月 1 日施行令)

- に基づく社会福祉士・児童指導員科及び介護福祉士科の改革
- ② 保育士養成施設設置基準に基づく保育士科の改善(2009年～2010年)
- ③ 「上智社会福祉高等教育・研究センター」設立の検討
- ④ 入学者安定的確保のための学生募集活動の強化及び公式ホームページのリニューアル・管理維持
- ⑤ 介護福祉士国家試験の実技試験免除のための介護技術講習会の充実・実施
- ⑥ 学業成績優秀者への奨学制度の新設

Ⅲ. 管理運営面における重要課題と事業計画

法人及び設置する学校の管理運営については、健全性、透明性並びに効率性を確保し、次の「総務」、「人事」、「財務」に係る重要課題、事業計画に取り組みます。特に、21世紀を見据えた教育・研究体制を確立するために、管理運営面におけるそれぞれの整備、充実に向け、継続してこれを推進します。

1. 総務

ガバナンス・内部統制、危機管理、コンプライアンス、USR(大学の社会的責任)、上智ブランドの確立などの推進と実現に向けて、具体的方策を立案、実施します。

監査についても、監事監査及び外部による具体的な監査支援体制の構築を図るとともに、監事、外部、内部の三者による効果的監査とリスク管理評価の実施及び中長期的な内部監査項目の策定の実施を検討します。

『創立 100 周年(A.D.2013) 上智大学 教育・研究・キャンパス再興「グランド・レイアウト」』第 2 期の課題に取り組み、これを推進します。

重要課題と事業計画

- (1) ガバナンス、内部統制、危機管理等の推進と実現
 - ① 安全安心なキャンパスの実現
 - ② 法務及び監査室の設置
 - ③ 資産運用に係る監視体制の整備
 - ④ 重要規程の英訳化プロジェクトの着手
 - ⑤ 認証評価機関による認証評価の実施並びに評価後の改善の取り組み
 - ⑥ 「男女共同参画室」を設置し、男女の共同参画を推進
 - ⑦ 研究活動の不正防止計画、公的研究費の管理運営に関する大綱の整備
 - ⑧ 広報活動(大学広報、入試広報、国際広報、Web 広報)の強化
 - ⑨ 規程の英訳化、掲示、印刷物等の多言語対応
 - ⑩ 危機管理体制の整備(含む、公益通報体制、新型インフルエンザ対策等)
 - ⑪ 多様なステークホルダーに対応する校友室の設置(含む、卒業生等生涯メールサービス及び Web サービス)
 - ⑫ 公式ホームページのリニューアル
- (2) 上智大学創立 100 周年記念事業の推進
 - ① 上智大学創立 100 周年、上智短期大学創立 40 周年、上智社会福祉専門学校創立 50 周年記念事業の推進

- ② 上智大学創立 100 周年記念誌編纂作業の推進
- ③ 上智大学創立 100 周年記念事業室の設置

2. 人事

人件費が消費支出の多くの割合を占めるのは、学校法人の運営上の特性であり、ある意味では不可避であると言えます。しかしながら、本学院の学生納付金における人件費依存率は、他の私立大学に比べて高い水準にあります。本学院の教育上の特性である少人数教育を引き続き維持しつつも、教育・研究組織及び運営組織や教職員の人員構成の見直しを進めて、より効率的かつ効果的な教育・研究体制を構築すべく、中長期的な人事政策を策定し、実施していく必要があります。

2009 年度には、次の事項について重点的に推進します。

重要課題と事業計画

- (1) 教員、PD、RA、TA関係
 - ① 研究者、教員行動倫理基準の制定
 - ② 教員の就業規則の制定
 - ③ 教員人事制度の再構築
 - ④ 教員定員枠の策定
 - ⑤ 教員採用基準の制定
 - ⑥ PD、RA、TA制度の改善

- (2) 職員、運営組織関係
 - ① 職員の人材育成と意識改革の推進
 - ② 運営組織の意思決定機構と職員構成の見直し
 - ③ 運営組織の見直し
 - ④ 職員採用方法の見直し
 - ⑤ 職員の労働時間数の削減
 - ⑥ 職員の情報処理能力の向上

- (3) その他
 - ① 人件費依存率の改善
 - ② 教育・研究計画の策定と人事計画の連携強化
 - ③ 福利厚生のあるあり方を見直し
 - ④ 業務委託のあるあり方を見直し

3. 財務

学院の長期計画の基本軸である「グランド・レイアウト」は、財務部門の課題として、「学生納付金・補助金・寄付金・収益事業計画及び財政計画を樹立し、新しい財政基盤を整備する」こと、及び「キャンパスライフの環境条件を整備充実させる」ことの 2 点を重要課題として挙げました。2009 年度は、この 2 つの重要課題の進捗状況を整理すると同時に、2013 年までの 5 年間で展望して、財政及び建設を中心とした中期計画の立案と着手のための時期と位置づけます。具体的には、安全性と利便性を考えた各種耐震工事をさらに進めるとともに、四谷・市谷・石神井・秦野の各キャンパス開発計画を視野に入れた総合的見地から検討する学院全体の施設整備について、2013 年までに実現すべきものの優先順位をつけます。そして、それを支える財政計画の立案を並行して行い、多額の投資を必要とする施設整備を無理なく推進できるように計画を策定し、下記事項の実現を図

ります。

また、創立 100 周年記念事業募金は、世界的金融危機により、その環境の悪化が懸念されますが、創立 100 周年記念事業企画と密接に連携させ、新たな戦略や方策を策定出して、粘り強い活動を展開していきます。

重要課題と事業計画

- (1) 財政計画の樹立と財政基盤の整備等
 - ① 学院全体の校舎建設・改築・解体にかかわる中期財政計画の策定と資産運用体制・運用方策のさらなる強化
 - ② 収益事業用ビル建設の具体化検討
 - ③ ソフィア会との連携強化、募金室強化等による創立 100 周年記念募金の当年度目標達成
 - ④ セメスター制に対応した学費徴収方法の検討、及びスライド制を含め学費の在り方についての見直し
 - ⑤ 財務情報の公開内容の充実と学内外広報戦略の一環としての活用促進
- (2) キャンパス・ライフの環境条件の整備充実
 - ① 真田堀運動場の賃貸借契約の更新実現
 - ② 耐震補強工事の計画に基づいた実行とさらなる防災・安全面の強化
 - ③ 省エネ・エコ活動の推進
 - ④ 今後の発展の土台作りとなる総合的見地に立った四谷、市谷、石神井、秦野の各キャンパス開発計画の策定
 - ⑤ 喫煙ブース設置等による受動喫煙対策の強化
 - ⑥ 四谷キャンパス及び秦野キャンパスの環境条件整備

IV. 2009年度予算方針と計画の概要

本学院の重要課題と事業計画については、Ⅱにおいて教育・研究面に關わるもの、Ⅲにおいて管理運営面に關わるものについて説明しましたが、それらを具現化するためには適切な予算措置が必要です。予算措置にあたっては、数度にわたる予算委員会における審議、常務会・理事会の決定による予算編成大綱等に基づき、2009年度も限られた財源の重点的使用および支出削減を基本として予算を編成いたしました。

以下、2009年度予算の概要を経常予算と特別予算とに分け、それぞれの具体的措置を説明します。

1. 経常予算(毎年の事業継続に必須の維持費等)の具体的措置

(1) 収支の均衡

消費収支全体では、上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校の各経理単位は、予算の編成において消費収入と消費支出の均衡を図るよう努めることを基本方針とします。

(2) 人件費

人件費では、上智学院の消費収支計算書における人件費依存率を、同規模法人の

平均値に近づけること、そしてその値を中長期的に継続することを目標とし、引き続き、本学院の収支のバランスと費用対効果、そして経済情勢や社会情勢等を十分考慮に入れた客観的根拠を有する予算の編成を行います(人件費総額113億円)。

(3) 研究費

上智大学専任教員各個研究費・大学院研究費単価は、2008年度予算と同額とします(各個研究費総額192百万円)。上智短期大学各個研究費単価は、上智大学と同額(総額6.2百万円)、上智社会福祉専門学校各個研究費単価は、2008年度予算と同額(総額1.1百万円)とします。また、上智大学学内共同研究費、上智短期大学学内共同研究費は、2008年度と同額(35百万円)とします。

(4) 学部予算

学部予算(学部学科の運営に係る予算)は、2008年度予算と同額(424百万円)とします。理工学部については、講座研究費廃止に伴う差額分を申請型研究費として予算付与し、理工学部の教育・研究の一層の発展をはかります。

(5) 大学院共通費の増額

大学院共通費については、各研究科・専攻における活動の一層の充実を望み、増額を行います(共通費総額5百万円)。

(6) 「教育イノベーション・プログラム」の新設

2009年度から、上智らしい教育を推進したり、教育内容や方法の改善向上によって教育の質を高めたりするなど、教育の活性化や発展に寄与するため「教育イノベーション・プログラム」を新設し、教育制度の改善・発展・改革に係る企画の学内公募に基づき、上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校の各申請に対し予算を措置します(12百万円)。

(7) 奨学・奨励制度

上智大学創立100周年記念事業募金、上智短期大学創立40周年記念事業募金、上智社会福祉専門学校創立50周年記念事業募金への寄付を原資とする総額5億円規模の奨学基金を設定し、寄付、基金を基に奨学・奨励金給付予算を措置します。

新たな奨学・奨励制度は以下のとおりです。

[重要課題と事業計画]

Ⅱ-1 上智大学／(2) 国際化・国際交流の推進	
① 上智大学創立100周年記念海外協定校との短期教員交換制度	600万円
② The Sophia-Yale Joint Scholarship Program(上智大学創立100周年記念プログラム)	約600万円
③ 上智大学創立100周年記念東アジアアイエズス会4大学グローバルリーダーシップ・プログラム(奨励制度)	90万円
④ 上智大学創立100周年記念海外留学奨励制度	600万円
Ⅱ-1 上智大学／(3) 学生生活の活性化	
① 若手研究者養成奨励金(上智大学創立100周年記念レモス財団寄付金プログラム)	636万円

上智大学創立100周年記念熊谷奨学金	30万円
② 上智大学創立100周年記念住友商事奨学金	30～60万円
II-2 上智短期大学／(2) 学生支援の強化	
⑤ 上智短期大学創立40周年記念特待生奨学金	240万円
⑦ 上智短期大学創立40周年記念学長賞	30万円
II-3 上智社会福祉専門学校	
⑥ 上智社会福祉専門学校創立50周年記念成績優秀者奨学金	150万円

(7) 環境問題への対応

地球環境問題に関わって二酸化炭素の排出量を削減することは、本学院のような大きな事業所では避けることができない問題であり、かつ教育・研究機関として率先して取り組むべき課題です。さらに、東京都の環境確保条例の改正と2010年度からの新制度施行へ向けての対応策を検討することも急務です。これらを受けて、光熱水費予算は総額で2008年度予算と同額以内を目標とします。(2007年度決算412百万円、2008年度予算464百万円)

(8) その他の部門の予算

その他の部門の予算については、2008年度と同額とします。また、執行にあたっては、必ず複数の見積を取るなどして、極力、実支出額を抑制することとし、予算の計画的な執行に努め、年度末に予算額の大半を消化するような事態は避けることとします。特に、物品の購入費、システム関係経費は、再度内容の見直しを行い、支出の増額を極力抑えることとします。

2. 特別予算(当年度固有の事業及び新規事業に係る費用)措置の概要

本学院の事業計画に沿った資金面での重要課題は特別予算として決定され、その主な事項は次のとおりです。

[重要課題と事業計画]

II-1 上智大学／(1) 教育・研究機能の強化	
① 新神学部・神学研究科開設記念式典等経費	100万円
③ キリスト教人間学(人間学研究室) 取組み成果に係るシンポジウム	85万円
③ FDセンターの設置(未定)と教育改善支援経費の導入	100万円
⑤ 課程センターの設置	未定
⑨ 入試改革の推進	290万円
⑭ 研究機構常設研究部門改善経費	未定
⑮ 大学院生研究室の施設・設備改善経費	未定

⑰ 女性研究者養成・支援プログラムの実施	109万円
⑱ 時限研究プロジェクト室の新設	1,840万円
⑳ 2号館CALL教室の新設および既存教室のシステム更新	10,932万円
㉑ コンピュータールーム(PC演習室)のシステム更新	1,300万円
㉒ 法科大学院自習室のコンピュータシステム等の更新	642万円
㉓ 図書館全館の無線LAN化	903万円
㉔ 石神井分館所蔵図書遡及入力、貴重図書整備	4,174万円
㉕ 図書館地下1階の統合的学習環境整備	未定
㉖ 研究活動・成果のWeb公開	300万円
・キリタン文庫資料のデータベース化の更新	303万円
・文学部国文学科開設50周年記念シンポジウム他実施	101万円
・理工学部再編に伴う学生実験用備品等の充足	2,495万円
・補助金受給終了後の継続プログラムの実施	
法科大学院「国際仲裁」授業実施経費	340万円
グローバル・スタディーズ研究科オンラインジャーナル運営経費	237万円
理工学部科学技術英語教育支援経費	281万円
II-1 上智大学／(3) 学生生活の活性化	
④ 上南戦第50回記念大会開催費	590万円
⑤ 保健センター就業時間外看護体制の整備	232万円
II-2 上智短期大学／(1) 教育・学習支援の強化	
① 学生英語力向上のためにe-Learningの機能強化	585万円
③ 導入教育ハンドブックの作成	60万円
II-2 上智短期大学／(3) 管理運営における重要課題と事業計画	
① 1号館1階教室の机・椅子入れ替え	608万円
② 屋外アメニティスペースの充実	296万円
③ イベント用屋外ステージ(備品)購入	295万円
II-3 上智社会福祉専門学校	
④ 公式ホームページのリニューアル	280万円
III-a. 総務	
(1)-⑨ 重要規程の英訳化プロジェクトの着手	100万円
(1)-⑨ サインボードの多言語対応経費	1,000万円
(1)-⑨ 上智学院広報、上智大学通信、ソフィア掲示板、会議資料等の日英対応経費	1,000万円
(1)-⑫ 公式ホームページのリニューアル	未定
III-b. 人事	
(2)-① 職員の人材育成と意識改革の推進	400万円
III-c. 財務	
(2)-② 四谷キャンパス防災設備改修工事(第3期)	6,331万円

(2)－② 四谷キャンパス耐震改修工事(第3期)	未定
(2)－② 緊急通報装置増設(四谷キャンパス内9カ所)	10,126万円
(2)－② 秦野キャンパス耐震改修工事(第3期)	未定
(2)－② キャンパス内総合危機管理体制コンサルティング委託	378万円
(2)－② 災害時用「簡易トイレセット」備蓄	150万円
(2)－④ 四谷、市谷キャンパス再開発基本計画・設計料	未定
(2)－⑤ 完全分煙の簡易喫煙ルームの設置	963万円
(2)－⑥ ホフマンホール整備(第9期)	2,500万円
(2)－⑥ ホフマンホール外壁補修工事	6,000万円
(2)－⑥ 四谷キャンパストイレ改修/4号館(第2期)	15,000万円
(2)－⑥ 秦野キャンパス短期大学1号館・クラブハウス受変電設備更新	10,080万円
(2)－⑥ 秦野キャンパス共同溝内給水管等断熱工事	780万円
(2)－⑥ 秦野管理人室兼シャワー室・機械室棟老朽化対応工事	未定
(2)－⑥ 教室の机・椅子入替え/1・3・4号館	2,520万円

(注) 2009年度資金収支予算書及び消費収支予算書は、2009年度新入学生数等が確定した5月以降に公表します。

結 び

学校法人上智学院(上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校)は、教育・研究を取り巻く厳しい環境の中、さらなる充実発展を図るため日々の努力を重ねています。

グランド・レイアウトを通して試行錯誤の中で確立された「恒常的な自己変革体制」を実現すべく、2009年度もさまざまな新しいプログラムがスタートします。2009年度予算編成大綱において、教育活性化重点経費として新規に予算づけされた「教育イノベーション・プログラム」は、大学、短期大学および社会福祉専門学校の3校を対象とした全学的な試みです。上智らしい教育の質の向上を図るとともに、戦略的なプロジェクトを推進できる体制により、これまで以上に教育・研究活動と経営活動の有機的な結びつきが強化される見込みです。

本学院は、“Men and Women for Others, with Others”(他者と共に、他者と生きる人を育てる)の教育精神のもと、教育活動、研究活動並びに社会貢献、国際貢献それぞれを質量ともに向上させ、日本そして世界の発展に寄与する人材を育てて、「世界に並び立つ大学」に進化することを目指しています。

以 上